

**60代・70代のクルマ利用と買い物行動
に関するマーケティングデータ**

朝日大学マーケティング研究所

調査概要

調査方法 Webアンケート

調査期間 2008年4月22日(火)～4月28日(月)

事前調査対象 中京地区(愛知、岐阜、三重、静岡)
北陸・甲信越地区(新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県)
北関東地区(群馬県、栃木県、茨城県)
東北地区(青森県、秋田県、岩手県、宮城県、山形県、福島県)
上記に住む60～79歳男女

事前有効回答 651名

調査対象 事前調査回答者のうち、「車を運転したことがない」と回答した人を除いた
60～79歳男女

有効回答 308名

	事前調査	本調査
60～64歳	201	101
65～69歳	188	92
70～74歳	143	59
75～79歳	119	56
計	651	308

調査対象者本人が回答する方式と、調査対象者の回答を家族に入力してもらう方式を併用。

1.クルマの運転頻度と減少理由

現役運転者の運転頻度は年齢が上がるごとに低下。運転しなくなると様々な店の利用も減少

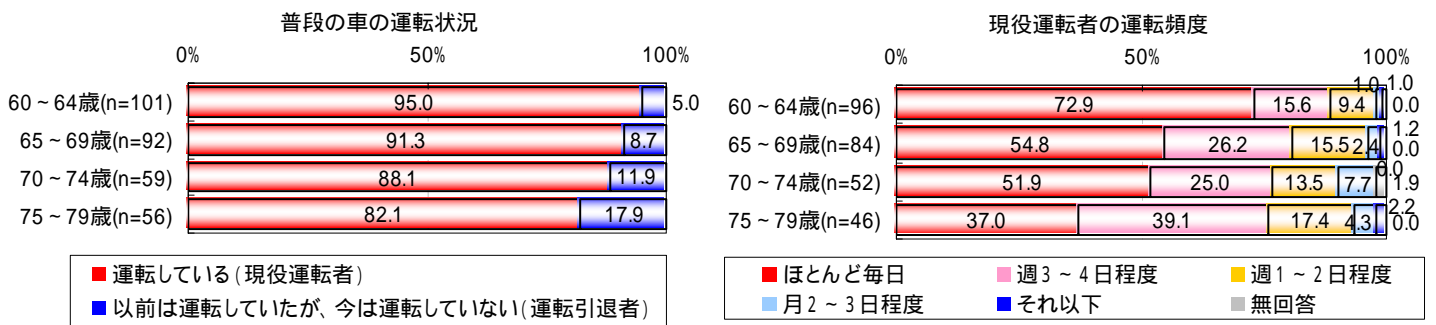
普段、車を運転している人(現役運転者)と、「以前は運転していたが、今は運転していない人」(運転引退者)の割合をみると、60～64歳では運転引退者は5%とわずかだが、年齢が上がるごとに徐々に増え、75～79歳では17.9%に上る。(車を全く運転したことがない人は除いている)

現役運転者では、ほぼ毎日運転している人が多く、特に60～64歳では70%を超える。年代が上がるにつれて運転頻度は下がり、75～79歳で毎日運転する人の割合は、60～64歳のおよそ半分に低下する。

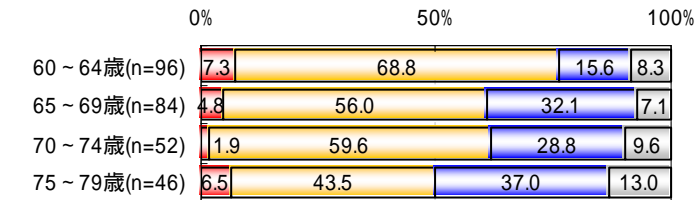
現役運転者のうち、5年前と比べて運転する回数が減った人の割合は、60～64歳では15%であるが、75～79歳では4割近くに増加する。運転回数が減った人について、ここ5年の店の利用をみると、様々な店の利用頻度が減っていることがわかる。交通手段としては、徒歩、家族の運転する車、自転車などが増えるが、「利用が増えたものはない」とする人も多い。

運転回数が減った人にその理由を尋ねたところ、60代では「車に乗る必要がなくなってきたから」という人の割合が最も高いが、70～74歳では「自分で運転するのは危ない、と感じ始めたから」、75～79歳では「自分で運転するのが面倒になってきたから」という人の割合が高くなっている。

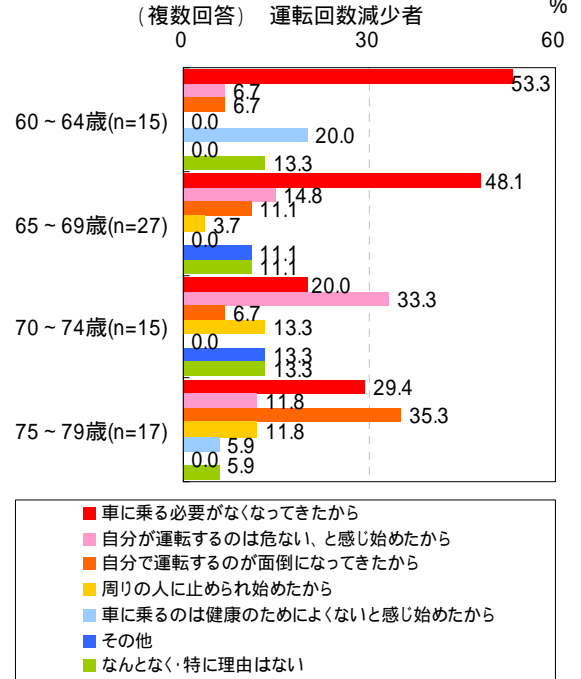
運転引退者が車を運転しなくなった理由としては、「大きな怪我や体調不良により運転できなくなったから」がもっとも多い。



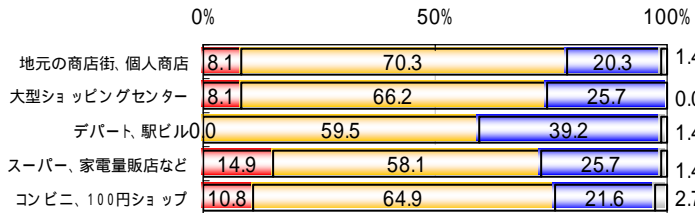
現役運転者の運転回数の増減 (5年前と比較して)



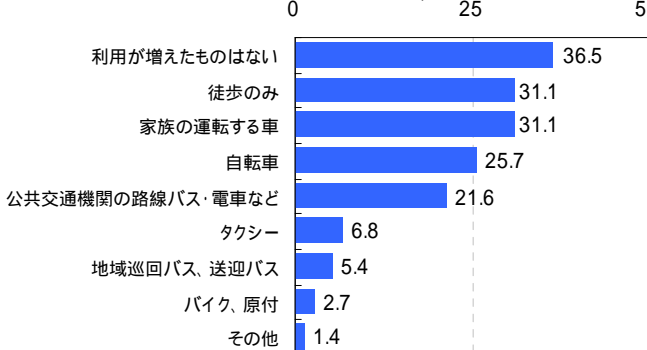
現役運転者の運転回数が減った理由 (複数回答) 運転回数減少者



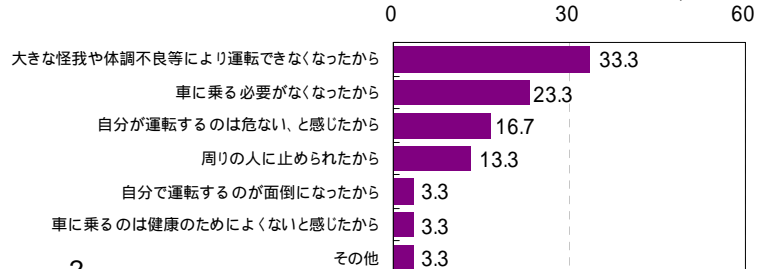
運転回数減少者の、ここ5年の利用頻度の増減(n=74)



運転回数減少者の、利用することが増えた交通手段 (複数回答・n=74)



運転引退者が車を運転しなくなった理由 (複数回答・n=30)



2. 現役運転者と運転引退者の外出先と外出手段

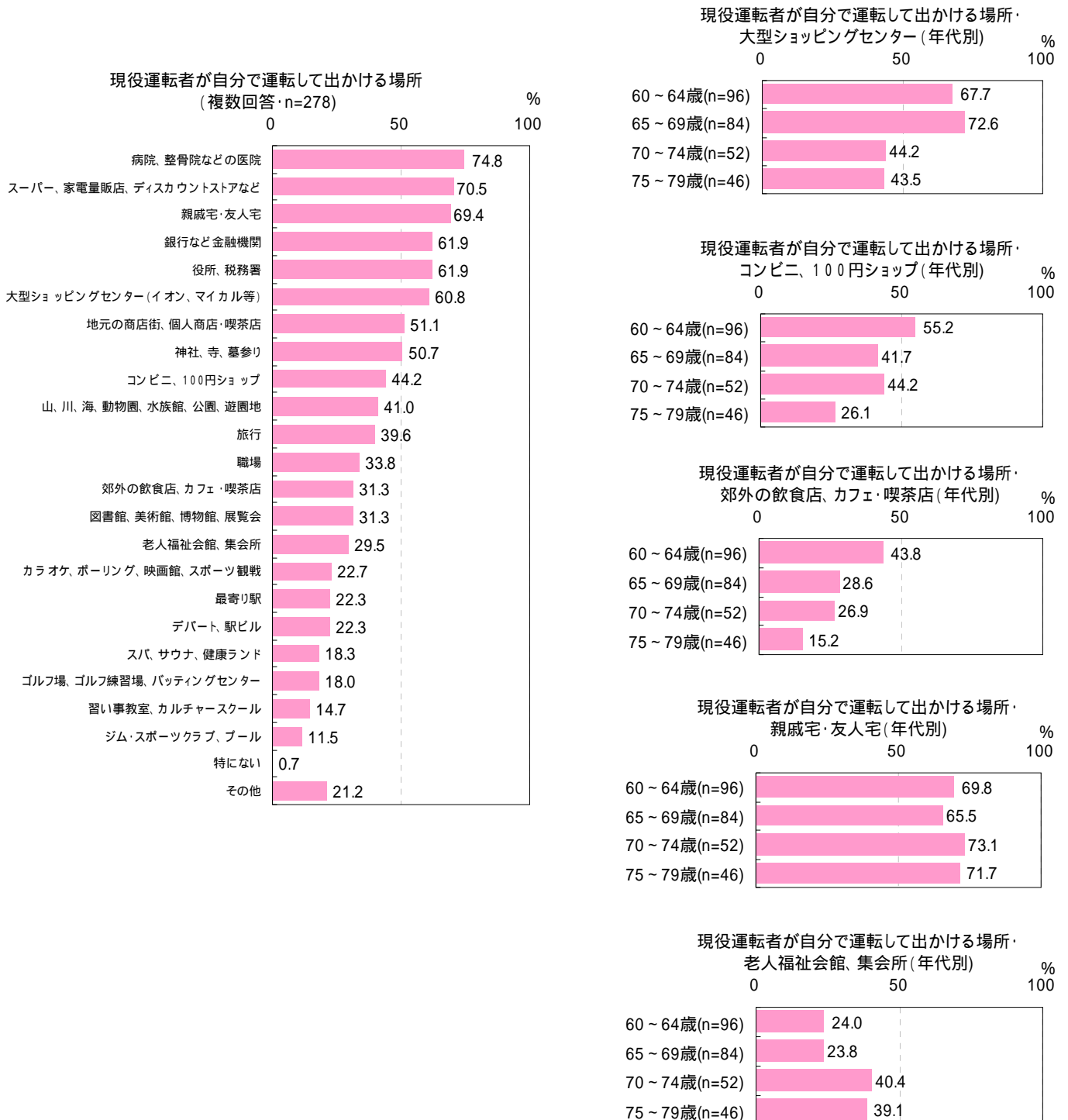
運転しなくても自分で行くのは病院やスーパー。大型ショッピングセンターには家族に連れて行ってもらう

現役運転者が自分で運転して出かけることが多いのは、「病院、整骨院などの医院」で74.8%。次いで「スーパー、家電量販店、ディスカウントストアなど」が続く。「親戚宅・友人宅」や「老人福祉会館、集会所」に出かける人は、60代から70代にかけて若干増加傾向にあるが、「大型ショッピングセンター」、「コンビニ、100円ショップ」、「郊外の飲食店、カフェ・喫茶店」に出かける人は大幅に減少している。

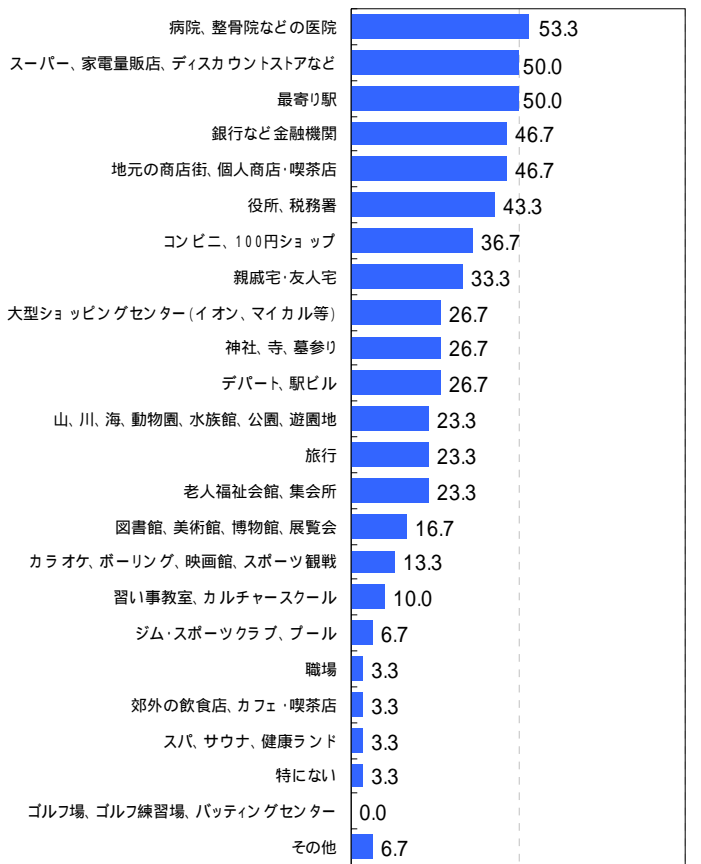
運転引退者は、「病院、整骨院などの医院」や「スーパー、家電量販店、ディスカウントストアなど」に自分で出かける人が多く、車を運転しなくても自ら徒歩、あるいは自転車で行動する様子が伺える。

しかしながら、現役運転者では、家族に連れて行ってもらうこと自体がない、という人も4割近くいる一方、運転引退者は家族に連れて行ってもらうとどこかに出かける人が増える。

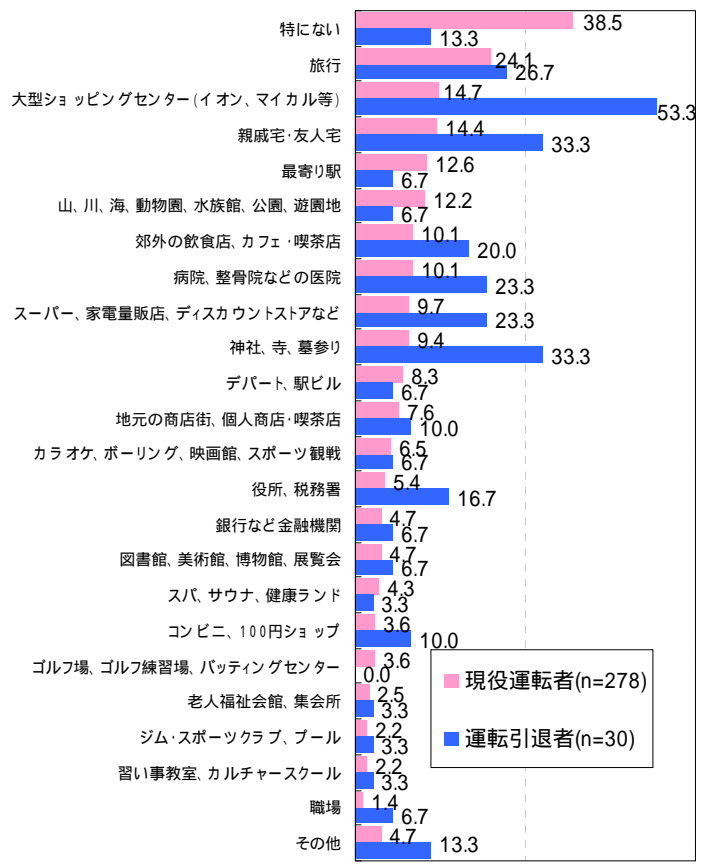
運転引退者が家族の車に乗せてもらってよく行く場所は、「大型ショッピングセンター」がもっとも多く、半数を超えている。ただし、買い物に行きたいと頼めばいつでも家族が連れて行ってくれる、という人は、運転引退者全体の約3分の1に過ぎない。



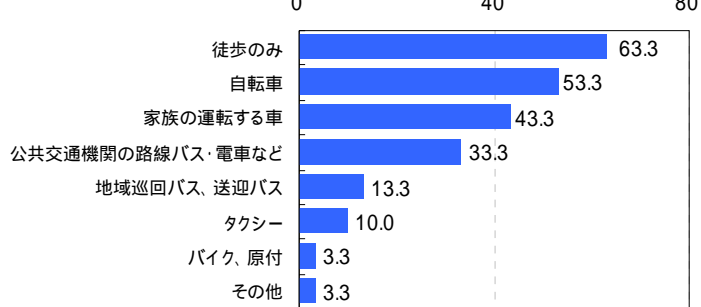
運転引退者が自分で出かける場所
(複数回答・n=30)



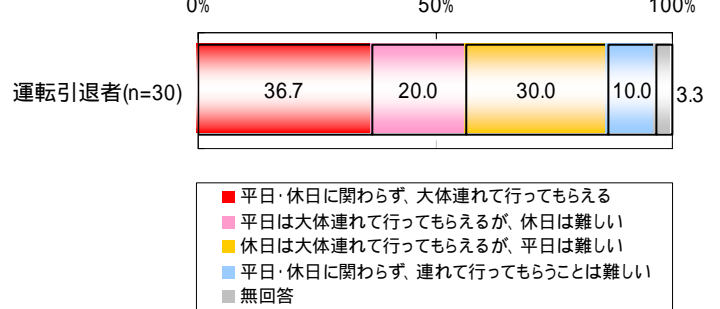
家族の車に乗せてもらう場所
(複数回答)



運転引退者がよく利用する交通手段
(複数回答・n=30)



買い物に行きたくなくなった時、いつでも
家族に頼んで車で連れて行ってもらえるか



3. よく利用する店について

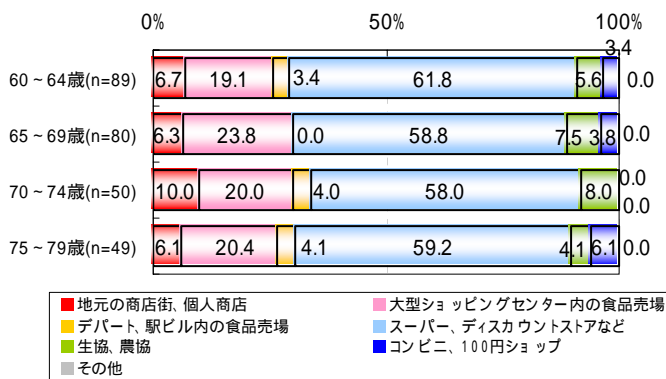
電化製品の購入、写真の現像、友人・知人との飲食店利用については、年齢が上がるとともに地元商店街の利用が増加

食料品の購入については、よく利用する場所に年齢差はあまりないが、日用雑貨、衣料品については、年齢が上がると大型ショッピングセンターでの購入が徐々に減少し、デパートや駅ビル内、地元商店街での購入が増える傾向にある。

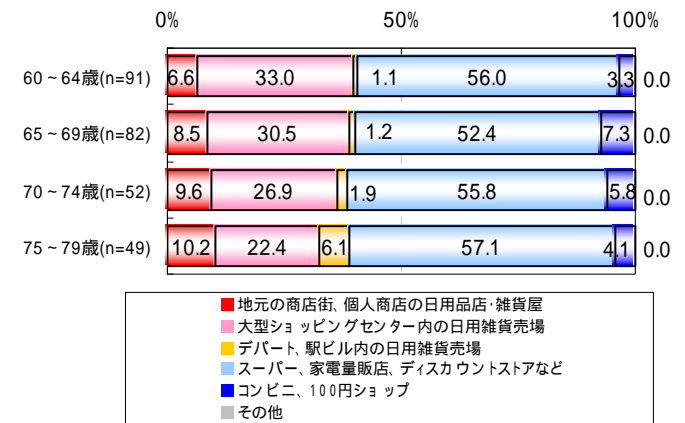
電化製品の購入、写真の現像、友人・知人との飲食については、年齢とともに、身近な地元商店街や個人商店の利用の増加が顕著となる。

以下のそれぞれのような時、利用することが多い場所(行くことがある人のみ)

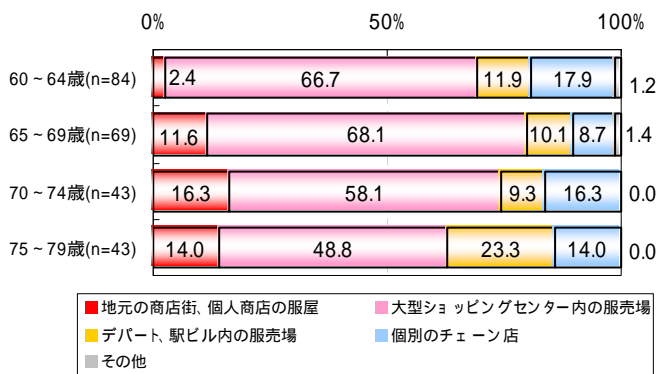
食品を買いに行く時



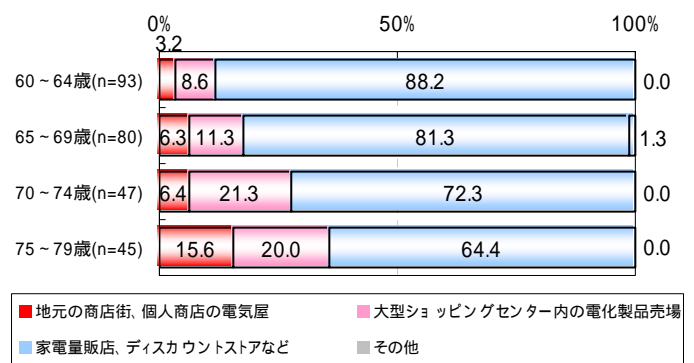
日用雑貨を買いに行く時



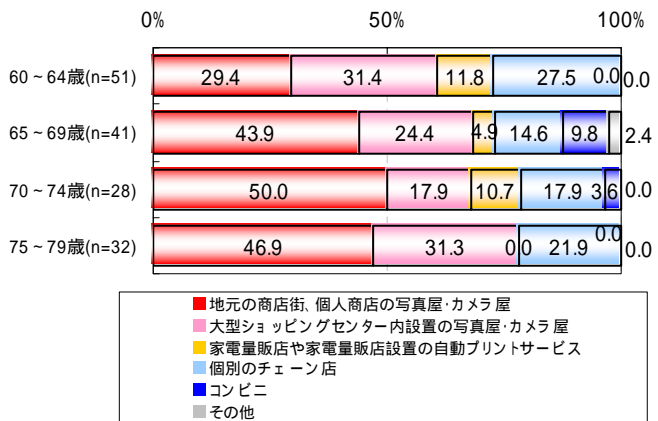
衣料品を買いに行く時



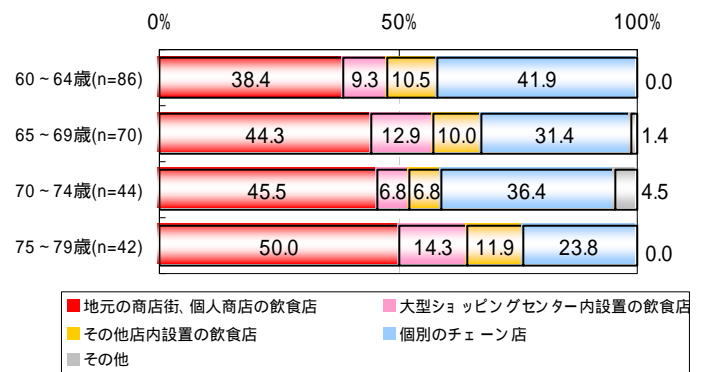
電化製品を買いに行く時



写真を現像しに行く時



友人・知人と飲食店に行く時

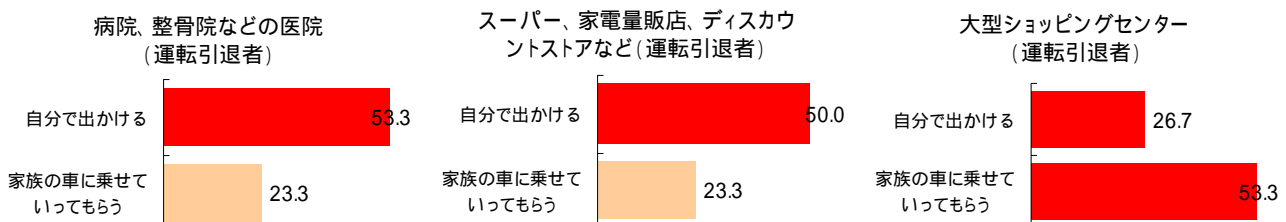


データの総括

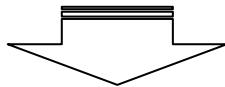
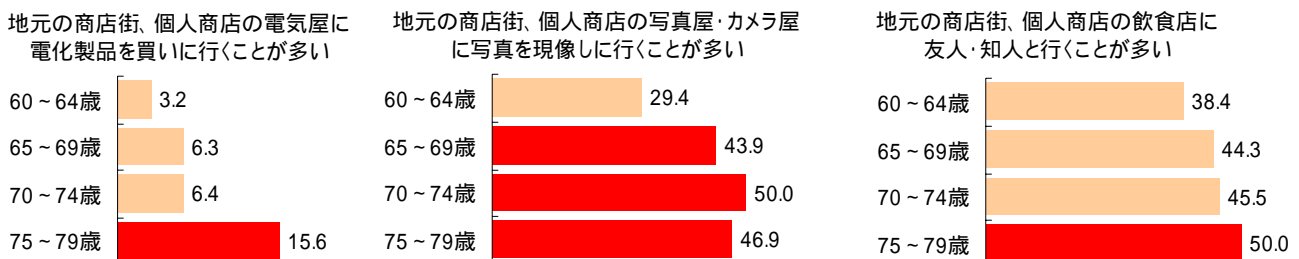
自分で車を運転することを止める人は年齢とともに増加し、75歳を過ぎると2割近くに達する。また、現在車を運転している人でも、75歳を過ぎると運転頻度は大幅に低下する。



自分で車を運転しなくなると、病院やスーパーには徒歩、あるいは自転車で出かけるが、大型ショッピングセンターについては自分で出かける人は減り、家族の車に乗せていってもらえることが多くなる。



年齢が上がるにつれて、電化製品の購入、写真の現像、友人・知人との飲食などで地元商店街や個人商店の利用が増えてくる。



事実から推測される仮説

日本における自動車需要は既にピークアウトしていると言われるが、今回の調査で、団塊世代が65歳を超え70歳に差し掛かる5年から10年後には、車の運転人口は急激に減少に向かうことが明確となった。60代前半には退職して運転する必要がなくなり、65歳を過ぎると運転への危機感や面倒さを感じ始め、75歳を迎えると、病気や身体の故障などもあって運転をやめる。車を運転しなくなると、病院やスーパーなど、近場であれば車がなくても徒歩や自転車で一人で出かけるが、郊外の大型ショッピングセンターなどには、家族に車を出してもらったりなど、人に頼らないと簡単に行けないため、60代、70代の足は次第に郊外の店舗から遠のいていくと考えられる。

車を運転することが少なくなると、外出が容易でなくなるため、大型ショッピングセンターをはじめ、デパート・駅ビルなど、全般的に店の利用頻度が低下する。しかしながら、電気製品の購入、写真の現像、友人・知人との飲食においては、地元商店街の個人商店をよく利用する高齢者の割合は、年齢が上がるとともに増えてくる。特に、車の運転を止め、外出することが億劫になる70代では、自宅から近く、より身近で親しみやすい個人商店が選ばれる可能性が高い。地元商店街や個人商店は、こうした高齢者のニーズを的確に捉え、郊外に取られていた顧客が再び戻ってくるこの機会を逃す手はない。

トピックスリサーチ

60代・70代のクルマ利用と買い物行動
に関するマーケティングデータ

発行日 2008年4月30日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp